

第1回 寒河江市立学校のあり方検討委員会 議事録

日 時 令和元年7月10日(水) 午後3:00～

会 場 文化センター第1研修室

- 1 開 会
- 2 委員の委嘱
- 3 教育長あいさつ
- 4 委員紹介(自己紹介)
- 5 委員長選出及び委員長職務代理者の指名
- 6 諮 問
- 7 協 議

○事務局(学校教育課 大沼課長)

はじめに、私の方から本市における児童生徒数の推移についてご説明させていただきます。資料1をご覧ください。これは、平成23年から令和13年までの児童生徒数の推移を表しております。ただし、小学校については、令和8年度以降が空欄になっておりますが、これはこの年以降の小学校に入学する子供が今年(令和8年度)の4月以降に生まれる子供ということで、人数が未定のためであります。また、表の最終年の令和13年度ですが、中学校のみ数字が入力になっております。これは、令和13年度が平成30年度に生まれた子供が中学校1年生となる年度になっております。ですので、今現在推計できる一番先の年度が、中学生の場合令和13年度ということになります。ご理解の程よろしくお願いいたします。

今回お渡しした学校等の人数推計については、本会議で初めて公開する資料となります。資料の中身について、外部へ話していただくことは差支えありませんが、資料のコピーをとり外部へ公表することは、お控えください。資料のみが先行し、様々なかたちで話が異なる方向へ進んでいく可能性も考えられますので、資料の取り扱いには十分注意していただきますよう、ご協力お願いいたします。

それでは、資料1の本市の児童生徒数についてですが、現在の令和元年度と比べ6年後の令和7年度には小学校284人13.2%の減少、中学校22人2%の減少となっております。小学校の減少と比べて、中学校の減少はほとんどありませんが、令和13年度になりますと中学校で209人18.9%と大きく減少する見込みです。特に陵西中学校では、現在140人の生徒がおりますが、令和7年度には109人、令和13年度には90人と他の学校と比べ大きく減少することとなります。

しかしながら、中部小学校だけはほぼ毎年増加しており、令和7年度には92人16.2%増加となります。加えて、この学区内では現在でも宅地の分譲が行われており、今後分譲地の造成も進められていることから、さらなる児童生徒数増加が見込まれております。こ

の増加が、市外からの転入によるものであるか、それとも市内他地区からの転居によるものであるか、今回学校のあり方を検討する上で大変重要な議題となりますので、その状況については関係各課で連携し、随時状況を把握する必要があると考えております。

続きまして、資料2をご覧ください。こちらは、令和元年度と令和7年度の各学校の児童生徒数と学級数の推移になっております。ご覧いただくように、学校によって1クラスごとの人数に大きな差があります。

続きまして、市の大きな課題である学校施設についてご説明させていただきます。資料3の市内小中学校の建築年数等という表をご覧ください。平成に入ってから建設された施設は、三泉小学校、醍醐小学校、柴橋小学校の3校のみで、他の施設は全て建築後30年を経過しております。検討委員会が終了し、新たに学校整備等が完了する令和10年度4月については、これらの施設が更に9年を加えた年数が経過することとなります。この際、中学校3校と西根小学校は築後50年を超え、中部小学校についても築後49年となります。いずれの学校も大規模改修や耐震化工事を行っておりますが、年々補修箇所が増加するとともに大規模な補修も発生するなど、財政的にも大きな負担となってきております。特に、建物本体は大規模改修や耐震化工事等で強靱化されておりますが、配管設備等が老朽化及び劣化が著しく、改修による対応が困難な状況となり、このような施設設備が喫緊の課題となっております。

以上が、現在寒河江市の抱える、少子化による児童生徒数の減少と施設の老朽化といった大きな課題となります。私からの説明は以上です。

○委員長

ありがとうございました。重ねてになりますが、今資料をご覧になっていただき、特に資料の取り扱いについては、一通りしっかりと約束を守っていただかないと今後の進め方に影響を及ぼすこととなります。ご承知おきくださいますよう、私の方からもお願い申し上げます。これにつきまして、ご覧いただいております資料に対しご質問やご意見等あるかと思えます。皆様からご質問等をお受けしたいと思えます。まず、資料を再度確認するため若干の時間を設けます。

それでは、委員お願いいたします。

○委員A

資料2を参照し、自分の地区を含め推移数の変化に驚いております。醍醐地区などは半分以下になってしまうケースもあり、これにより地域の行事等もなくなってしまうのではという話を先ほどからもしておりました。若干児童生徒数が増加する地区もあるようですが、やはり対策は講じていく必要のある切実な課題かと思えます。寒河江(地区?)は人数が多いため、他の地区で小規模な学校を統合することが策の一つとして考えられます。寒河江市も少子化の影響を受けていることを、資料の数値を見て改めて気づかされました。しっかり

と検討していかななくてはならないと考えております。

○委員長

ありがとうございます。次の方お願いいたします。

○委員B

地域活動は学校中心に行われるものであり、例を挙げると田代小学校が閉校後「学びの里 TASSHO」となり地域交流の場として活用されておりますが醍醐ではあんなことができるのか、できないとすると、このまま学校がなくなってしまうと、地域に高齢者ばかりとなり、外にも出歩かない暗い雰囲気地域になってしまう可能性があります。今のうちから小学校と地域で協力し合い、対策を講じていく必要があると思います。資源のリサイクル活動の際も、小学校の児童数が足りず、地域が主として行っていかなければならないという状態です。地域の活性化のためにも、学校中心に動くことが必要だと私は思います。

○委員長

ありがとうございます。次に、委員お願いいたします。

○委員C

改めて学校の児童数が少なくなっているなど感じますが、先ほど委員からもお話ありましたが、地域における学校の役割や学校自体の存在は非常に大きいものであります。そのため、地域の皆さんは学校の動向に非常に敏感です。長期にわたる検討とのことですが、丁寧に進めていただけたらと思います。

○委員長

ありがとうございます。それでは、委員お願いいたします。

○委員D

数値を参照し、少子化による児童生徒数の減少を改めて実感したところであります。先日、山形に国会議員がいらっしゃった時にお聞きしましたが、今後は少子化の進行が必至であり何かしら動かなければいけない、その中で本会議のように学校のあり方を考えていかなければならないと議員も話しておりました。3、4年ほど前から話題にあがっているようで、政府の方でも第一歩が動き出したとおっしゃっていました。そのため、リアルタイムで政府と学校のあり方検討委員会が進行するのではないかと思います。これからの子供たちのために、どうかたちで進め、どのような学校体系にしていくのか、よく検討していく必要があると考えております。

○委員長

ありがとうございます。委員お願いいたします。

○委員E

少子化ということで、具体的な数値を目の当たりにし愕然としたところであります。(※)この場というのは、教育委員会ということで、例えば子供たちの学区や校舎の老朽化とか適正な配置を考えれば、もしかしたら物理的には話し合いしてうまく調整できるかもしれませんが、ただし、問題の本質というのは、例えば小学校中学校の児童生徒数が少なくなるとなれば、よそにもっていけば学校が成り立つと思うのですけれども、持っていけないところ、子供たちがいなくなるところは地域の担い手がいなくなるということですので、地域のコミュニティが成り立たなくなる前触れといいますか、大変恐ろしい事態が来るのかなと思ったところです。そのため、寒河江市の方でもどういうビジョンを持って市政を進めていくかが重要になってくると思います。

私は、先ほど減少率が著しいという話がありましたが、明らかな理由があるのではないかと考えております。例えば、中部小学校は増加の傾向があると資料に記載がありましたが、住宅団地の造成などが関係しているのかなと思います。陵西中学校の学区内にはほとんどそういったことはない状態が続いたこともあったので、徐々に人が減っていったと思われる。このような児童生徒数が減少していく状況の中で、どうしようかというのでこの会議が開かれているわけでありましたが、もうちょっと長い目で見る必要あるのかなと思ったところです。

○委員長

市当局の考えを初めに出していただきますと、私はフリーな立場で意見を出していきたいと思っておりますが、変な形で忖度が働いてしまうといういろいろな問題が生じてまいりますので、本会議の進行過程でこれを調整していくという形で対応させていただくと考えております。

それでは、委員お願いいたします。

○委員F

1つ質問があります。昨年の夏の段階では、来年の小学1年生は120名程になりそうだと聞いていたのですが、蓋を開けてみると100名に届かず3クラス編成とのことでした。資料1に、中部小学校学区から寒河江小学校へ学区外就学があったようですが、他の学区でも学区外への異動はあるのでしょうか。また、これは質問ではありませんが、今後中部小学校の児童数が増える予想が出ておりましたが、夏休み期間のプールに関して、中部小学校は東側と西側に分け午前午後で使用を区別していると思うのですが、偶然幸生小学校に夏休み期間私が伺った際に子どもさん方が広々とプールを使っているのを見て、子どもたちが

多いから集団活動を学ぶことも大切だなとも思いながらも、幸生小学校のように広々とした環境で学ぶのも大事であると思いました。多いからいい、少ないから悪い、という単純なことではありませんが、人数の適正なバランスが必要であるとプールの状況を見て感じました。

○委員長

只今ご質問にありました学区外就学の件ですが、現状に関して回答いただけますでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

学区外通学といいますと、住所は中部小学校区にあつて寒河江小学校に通う子供がいるという認識でよろしいでしょうか。教育委員会で届出を受けている中では、学区外通学者は多くはないと把握しております。特認校制度といたしまして、寒河江小学校から醍醐小学校、幸生小学校などに通う子供もおりません。ただ、両親の勤務先の関係で住所のある学区とは異なる学校に通う子供は1名いらっしゃいます。中部小学校区から寒河江小学校区への学区外通学者はいないと認識しておりますが。

○委員F

中部小学校区から寒河江小学校区への学区外通学者はいないのですね。受け入れ枠の少なさや直前に辞退といったこともあるとは思いますが。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

もともとの住まいが中部小学校区という方ですか。

○委員F

もともと平成30年度の段階で中部小学校区に住んでいる幼稚園の年長、順当にいくと中部小学校にそのまま入学する見込みの子供が110から120名ほどであったと認識しております。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

引っ越しもされていないのですか。

○委員F

先ほども申しあげましたが、120名程いれば4クラス編成だと学校の方とも話しておりましたので、引っ越しは考えられないかと。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

ただ、何とも申しあげられないのが、住民登録を実家の方でしてアパートのみ学区内、つまり学校に行くときはアパート、というケースもありますので、そのような場合は教育委員会側では把握することはできません。それほど学区外通学者はいないはずです。

○委員G

中部小学校区にいて、後に他所に移った子供の具体的な人数はわかりますでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

中部小学校区に住民登録をしていて、寒河江小学校に通う子供につきましては把握できます。しかし、そのような子供は20名もおりません。おそらく、いたとしても1～2名程度かと思われます。ですので、委員がおっしゃったクラス編成にも影響を及ぼす程度の、20名もの子供の減少は、中部小学校区から寒河江小学校に学区外通学をする届出自体受け付けておりませんので、直接的な減少の要因ではないと考えております。

○委員G

確認ですけれども、中部小学校区から寒河江小学校に移った子供は、1から2名程度なのでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

いえ、どういった状況であるか確認する必要があります。

○委員長

今、学区外通学に関して即答できないと思います。様々な事情があります。原則、学区というものは、いわゆるその範囲を出ない、その中で育つということを原則としておりますけれども、特認校というものがあります。これは、小規模な学校に限り、現在の通学区域の規定を残したまま、特定の学校について通学区域に関係なく就学を認める制度であります。

ですので、後ほど事務局の方で調べて説明いただけますでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

はい。先ほどの件につきましては、調べた上で後日皆さんよりいただいた質問と合わせて回答いたします。

○委員長

今ありました質問等も参考にした上で、進行させていただきます。それでは、委員お願いします。

○委員H

具体的な数字を見て、本当に驚いてしまいました。人数が減っていくのを黙ってみていてはいけないと思いました。統合とかの検討を進めるのと並行して、出ていった若い世代を呼び寄せたり、市外から転入してもらうなど市が手を打たないと今後大変かなと思ったところです。

○委員長

ありがとうございます。それでは、続けて委員お願いいたします。

○委員I

先ほども申しあげましたけれども、スポ少や部活動等で人数が少ないとチームが作ることができない、自分の希望する部活動が廃部になってしまい部自体に入ることができないという話も聞いております。人数が多すぎて3年間部活動に励んでもメンバーに入れない等、そういったバランスも大切かなと思います。

多いから良い、少ないから悪いというわけではありませんが、何度も申しますようにバランスがやはり大事ですので、その部分のあり方を検討して、今の寒河江市の子供たちが自分の力を発揮していくためには、バランスの取れた学区割などそういうことが検討されれば良いかなと思います。

○委員長

ありがとうございます。それでは、委員お願いいたします。

○委員G

今、委員からも人数の適正なバランスのお話ありましたが、これまでも何らかのかたちで検討されてきているのではと思います。学区編成についてその経過があるのかどうか。学区編成のこれまでの経過がありましたら、教えていただきたいです。

また、校舎の新築計画も例えば「あと何年か経過したら新築しなさい」等というものがあったのでないかと思うのですが、そちらの方もこれまでの経過等ありましたら併せて教えていただきたいです。

○委員長

それでは、只今質問にありました学区編成の経過についてですが、事務局の方から回答いただけますでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

中部小学校といいますのは、元々寒河江小学校から分かれた学校となっております。学区

については、その際編成した学区から変更はありません。実際、学区の変更といいますと、途中で子供が移ってしまうこともありますし、地域との話し合い等も大変難しい問題となってきました。一時期、中部小学校が教室から溢れてしまうくらい子供がいたということもありました。その際も、学区の見直し等はされていないと認識しております。ですので、そのままの状態中部小学校西側の地区のみ開発が進み、中部小学校と陵南中学校の人数が増加し現在に至ります。

○委員長

中部小学校が新しくできたことも一つの要因と考えられますけれども、学区は様々な都合がからみ合って経過していった傾向があるかと私は思います。また、田代小学校のように学校がなくなった場合は、その後近隣の学区に統合されていったという経過で、大きな変化はないそうですね。

もう一つの質問ですが、施設の建築年数に関して回答していただける方はいらっしゃいますでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

施設についてですが、国の方から学校については新設ではなく長寿命化ということで対応するようにと指導をされております。しかし、長寿命化といいましても限度がございます。陵東中学校に至っては現時点で50年を経過しておりまして、大規模改修で強靱化をはかったとしても、本体内部の配管等については限界ではないかと思われまます。本会議には陵東中学校の校長先生もおりますけれども、本当に生徒たちもかわいそうであると教育委員会の方でも感じておりまして、できる限り改修をしていきたいと考えております。

また、国の方からは昭和40年代に全国で鉄筋コンクリートの学校が建設されているということで、多くの学校が築後40～50年を迎えております。そこで、効率的かつ財政負担を拡大しない程度に、各市町村において個別の施設整備計画を作成するようにと指導がありました。本市でも、個別計画を作成する必要がありますが、13校の学校をどのように再編していくかということの影響が大変大きくなります。この計画策定については職員が作るのではなく、専門のコンサル等に依頼して建物の状況調査等をし、今後何年間、使用できるのか等詳しい調査を行い作成する必要があります。本市の場合、推定1000～2000万円程費用がかかるのではないかと考えております。逆に本委員会での審議の結果、現在の校舎を使わず新たに校舎を建てる方向性について決まった場合は、使わなくなった校舎については個別計画を作成する必要がないこととなります。その分個別計画作成にかかる費用についても削減可能ということで、作成を保留としております。

市全体についても、公民館や体育館、市庁舎、保育所等様々な施設がございます。これらについても、今年度中に個別の施設整備計画を策定し、2～3年のうちに市全体の計画を作成する予定であると聞いております。市の整備計画と併せまして、学校の整備計画について

も進めていこうと考えております。

○委員G

この検討委員会の中で、学区編成についての意見が出た場合には、それに向けて計画の検討をするということでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

はい。

○委員長

確認ですけれども、本会議が決定の場ではないという認識でよろしいでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

はい。

○委員長

教育長からいただいた諮問に対して、本委員会としてはこのような方向性であるということと答申を出して、これを基に、最終的な設置者は寒河江市ですので、市の方で議会を通して方針として最終決定をしていただくという流れになります。この場はあくまでこの検討委員会の考えを出す場であって、ただし、大きな問題を含んでいるということは間違いのないところであります。

それでは、次に委員よろしくお願いたします。

○委員J

資料の数字を拝見して改めて、何か対策を講じなければと思いましたが、PTA役員の方とお話させていただいたときに、やはり児童数が少ないところについては、PTAの役割がいろいろ増えてきて、みんなが何か1つ役割をしなければならず負担になっているとのことでした。その状況を少しでも是正できればと思います。

○委員長

ありがとうございます。続いて、委員お願いします。

○委員K

資料1、2を拝見しまして、子どもの数が減ってきているのを感じました。スポーツ少年団も徐々になくなってしまいました。やはり人数が少なくなると、子供たちの活動の選択肢も少なくなってしまうということが非常に残念です。学校というものが地域のコミュニテ

ィとなっているのも現状ですので、学校を統合すると人数も多くなりますし、子供たちの選択肢も増えるのではないかと思います。

ただ、統合される側は学校がなくなることにより、地域の元気がなくなってしまいそこに人が増えなくなるのではという懸念もあります。検討は慎重にしていき、バランスの良いところでまとめればと考えております。

○委員長

ありがとうございました。続きまして、委員よろしく願いいたします。

○委員L

資料を拝見いたしまして、子供の減少、今後の推移について実感したところであります。数年後にはかなり数が減少してしまうということで、やはり学校の子供たちが減ってしまえば、それだけ地域における活気もなくなってしまうのではないのでしょうか。数字の面からの判断ではありますが、痛感したところであります。

先ほど事務局の方からもお話ありましたが、これからも中部学区で人数が増加すること、どのようなかたちで入学する方がいるのかはわかりませんが、その分他の学区から子供が減る等学区や地域の問題が起きてくるのではないかと思います。学区にはこだわりを持った方もいらっしゃるので、この会議でいろいろ決めていくことは非常に大変になるなどと思います。

○委員長

ありがとうございます。学校での現状はどのようなものか先生方よりご意見、感想いただければと思います。委員からお願いいたします。

○委員M

地域で学校に通う子供の姿も見えているのですが、初めに話ありましたように児童生徒数の減少による地域不均衡ということと、施設の老朽化で教育委員会にはお世話になっております。

学校の現状としては、先に述べました二つのことも当てはまるのですが、その他としては児童生徒数の減少に伴って、人との関わりですとか、学校での集団的活動を行うのが難しくなっている現状もあります。その反面、地域との連携は密接にできておりまして、例えば地域の方が学校に足を運び指導して下さり、地域内の資源や環境を使わせていただいたり、そういう良さもあると思います。地域のよさやつながりを残しながら、子供たちにとってどのような形が最適か考えて、そして適正な教育環境を作ってあげることが今後大事だと感じているところです。

○委員長

ありがとうございます。それでは、委員お願いいたします。

○委員N

南部地区の場合児童数は減少傾向であります。中部小学校区は増加傾向にあり、同じ陵南学区の中でも不均衡があると思います。柴橋学区も減少傾向にありますし、学区が隣接していても中部小学校だけが肥大化して大規模校になっています。南部小学校と柴橋小学校は陵南学区ですが減少しておりますし、そのあたりの不均衡もこれからの課題なのかなと思います。

南部小学校の場合、PTAが専門部の活動といいますか、専門部自体の見直しをしていこうということで、縮小していかないとPTA役員が回らないということで。大規模小規模という話ありましたけれども、適正規模はどれくらいの人数がいれば適正なのかも踏まえたうえで検討する必要があると思います。

それで、県内で同じ課題を抱えている市町村はほとんどだと思うのですが、全国で人の取り合い、人寄せ、少子高齢化が進み、若い世代を集めたいというまちづくりをどこの市町村でもしているかと思いますが。全国的にやっているのではなかなか効果がすぐに感じることはできないのではないかと思います。いい案があっても、だからといって人が集まってくるかということ、やはり何年かかけて徐々に集まってくるということで、そこにはあまり期待できない。この現状の数字の中で、おおよそ考えていく必要があるのかなということ、やはりこういった統廃合や学区編成を考えている他市町の事例などの研究を、我々も勉強していかなければならないと感じております。

また、地域の活性化ということがあるので、文部科学省の方ではコミュニティスクールの推進しておりますけれども、それはどうなのか。自分たちの学区の中でのコミュニティスクールはあり得るのか。コミュニティスクール、例えば、陵南学区では陵南中学校を中心に柴橋小学校、南部小学校、中部小学校がコミュニティスクールを形成することとなりますが、先ほどお話した不均衡がどの程度是正されるのかという点についても、勉強していく必要があると思います。難しいことを一気にやろうとするとなかなか進まなくなってしまうので段階的に考えていかなければならないかと。10年後一斉に始めるのではなく、例えばこの段階ではこことこの学校は合併が必要になるかもしれないですし、ある学校の校舎については大規模改修にするのか、それともほかの学校と合併するので使用しないのか等少しずつ青写真を我々で考えていく必要があると思います。新校舎は無理だということですので、つまり寒河江市では新校舎は建設しないという前提で、ということでしょうか・・・。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

いえ、新たに建設しないと中学校については築年数の限界に達しております。

○委員N

もし建設するとなると、どこに配置してどういう学区編成で、というところでのということを考えなければならず、非常に重い責務を背負っている感じはしているところです。やはり子供たちが学ぶのに適正かどうかを中心に考えて、常に頭に入れておいておかななくてはならないと考えているところです。

○委員長

ありがとうございます。委員お願いいたします。

○委員O

中学校全体の現状をお話したいと思います。先ほどの資料にもありましたが、寒河江市内の中学校三つ全てにおいて校舎の築年数が40年を経過しているとのことで、様々な視点ありますけれども私は老朽化について意見を述べさせていただきます。現状としては、陵東中学校は築後52年、陵南中学校は築後49年、陵西中学校は築後43年ということで、本校の場合、体育館は昨年体育館は床を改修していただき、今年全小中学校でエアコンをつけていただいて環境については市の方からご努力いただいたところであります。トイレは昔のままで臭いがひどく、先日の町会長さん方を集めた会議でも、トイレの改修を求めのご意見をいただきました。また、水道も配管の関係で子ども達にとってはおいしくない水と感じたり、壁に関しても老朽化が進み、壁は亀裂が入っていたり、トイレからも水漏れもしょっちゅうあります。陵南中学校でも同様の傾向がみられますが、特に駐車場の不足が問題で、生徒数が多いため保護者の方を学校に召集する際にやむなく学校周辺の施設に駐車してお叱りを受けている状態です。陵西中学校も同様です。

以上のように校舎の老朽化もありますけれども、ぜひ計画的に施設新築の方を進めていただければと思います。どういったかたちで進めていくのか、様々な視点ありますので、例えば学校が統合する場合には、地元の方に配慮しながら、子供たちが過ごしやすい夢のある校舎を作っていただきたいです。

また、中山中学校には何度か行ったことがあって、皆さんも行かれたかどうかわかりませんが素晴らしい校舎です。校舎に入ると博物館のようなエントランスがあって、1階の図書館から2階が吹き抜けでガラス張りとなっているため校舎内が明るく、また教室と教室の間に休憩スペースが設けられております。そちらで子どもたちが談笑することもできます。廊下も広く集会ができるくらいで、トイレに至っては全てセンサー式で人が入ると電気が点く仕様になっております。本当に素晴らしい施設だと思います。サッカーやテニスの施設等見ても、このような学校で子供を学ばせたいと保護者としても思うわけです。ですから、学校が統合してなくなるというマイナスなイメージではなく、新しく寒河江にこのような学校が建つんだという希望の持てる学校づくりの話題にできればと考えます。引っ越してでも寒河江のこの学校に通いたいと思っていただけるような学校をつくっていただきたい

という希望を持っているところです。

○委員長

ありがとうございます。皆さんからご意見いただきましたけれども、いろいろな問題があると思います。まずは児童生徒数の減少がこんなに多いこと、これからどう維持していくかという移住定住の問題も出てきます。そして校舎の老朽化の問題があります。学区の問題もごさいます。以上のように非常に多様な問題を含んでおりますので、一長一短ではいかないと私も承知しております。

私はほかの自治体での経験から、学校とは何かという問題に行き当たりました。ある地区では、町が一つの学校に統合すると決まり、統合されていき中山中学校のようなものとはなりません。校舎ができたとして、ところが、一つの地域が統合を拒み、自分たちは自分たちで学校を維持し子供を育てるといった方針を取り、反対されました。そして、いまだにその地域だけ一つの学校として存続しております。小中学校です。中学校のクラスの生徒が一人です。各学年1人なのです。それで授業をやっている。そうした時に学校の適正規模って何なのか、一生懸命考えているわけです。文科省では何学級以上が適正規模といっている。その根拠は何なのか。我々はそういうことも含め検討しなければいけない。今後様々な話し合いの中で課題や問題が提起されると思いますが、それを基にしながら、やはり市民にとって、「そのような方向で良かった」「ぜひ自分たちの子供をその学校で教育させたい」とそういう方向になるような、少なくとも後ろ向きではない前向きな方向で進めたい、そんな答申ができたかと考えております。

皆さんから他に意見や質問等ありますでしょうか。

今後のスケジュールについてお話しします。これからの進め方について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

それでは、私の方から今後のスケジュールについて説明させていただきます。今日配付した資料の中に、今後のスケジュール案というものがありますのでそちらを参照してください。

第1回目は本日の会議になります。令和元年度については、9月末、11月末、年が明けた2月という日程で計3回、それ以降、令和2年度については計4回、令和3年度は計3回というかたちで合計11回の会議を予定しております。来年度以降につきましては、話の進み具合に合わせて開催時期を決定させていただきたいと思っております。

検討内容について先ほど教育長の方から諮問ございましたが、まず皆さんにお話いただきたいことは、学校適正規模、一学年の学級数、一学級の児童数についてであります。今日皆さんのお手元には、文部科学省による学校の適正規模・適正配置に関する資料も配付して

おりますので、併せてご覧ください。そちらでおおよその適正規模が決定しましたら、次は学校の適正配置ということで、小学校中学校それぞれの学校数やどういったかたちで配置をするか等検討していただきたいと思います。

この1番と2番につきましては、今年度から来年度夏にかけてある程度の方向性を示していただきたいと考えております。本会議の検討内容がまとまってから施設整備計画の作成に着手すると間に合わないため、私どもの方でもこの会議と同時進行で施設整備計画も少しずつ進めていきたいと考えておりますのでご協力お願いいたします。

1番と2番が終わりましたら、今後のあり方や将来の学校像について皆さんの方からご意見をいただきたいと思います。先ほど委員の方からもありましたように、自分の子供も寒河江市の学校に通わせたいといったような、夢のある学校づくりといったことも本委員会を立ち上げる前より話に出ておりました。これからは、今までの教育とは異なる様々なスキルが子供たちに求められる時代になります。そのようなことも見据えて、ぜひ夢のある計画を皆さんの方で議論していただきたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

また、今回お配りした資料の中に連絡票を2枚ずつ入れております。会議終了後改めて資料を参照した際に、質問や資料に対する要望がありましたらこちらの連絡票に記入いただき、次回持参してお話をするのでは効率的に話が進みませんので、前もって連絡票で提出いただいたり、メール等でも結構ですので、学校教育課の方にご意見、ご質問等お寄せいただき、私どもで集約し、委員皆さんにお返しいたします。今回と次回の間には質問等ありましたら、次回までに私どもの方から返信させていただきます。質問受付の締め切りは7月末までとなります。先ほど委員から質問いただいた学区外通学の件につきましても、他の質問とまとめて回答させていただきます。

○委員長

今後のスケジュールについて、何か質問等ある方いらっしゃいますか。

○委員G

こちらから前もって質問を用意するとのお話でしたが、可能であれば資料も前もって配付していただければこちらも前もって目を通せるのでぜひお願いしたいと思います。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

はい、わかりました。それでは、2回目以降資料を前もって配付させていただきます。

○委員L

仕事の都合もありますので、8月初め頃に次回開催要項等教えていただけないでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

それについてですが、会場確保の関係もありますので次回の会議日時を決めていただきたいと思います。

○委員長

9月末といいますと、具体的にはどの週を予定しておりますか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

神輿の祭典が行われる第2週目以降を考えております。議会終了後、9月24日以降になります。

○委員長

10月に入ると厳しいでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

10月に入っても大丈夫です。

○委員長

9月24日の週もしくは9月30日の週のいずれかで開催するということですね。教育委員会側の都合はいかがでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

9月24日、25日、26日のいずれかでお願いしたいのですが、皆さんの都合はいかがでしょうか。時間は15時固定でよろしいでしょうか。

○委員長

西村山校長会の日程との兼ね合いもあります。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

それでは、9月30日の週はいかがでしょうか。全員の都合を合わせることは難しいと思いますので、一番人数が集まる日にしたいと思います。

○軽部教育長

今回欠席している委員の都合を優先してはいかがでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

それでは、本日欠席しております委員ともお話をし、市の議会日程とも調整した上で早めに皆さんに周知したいと思います。

また、先ほど委員の方から地域と学校との関わりについてお話ありましたが、委員は社会教育を専門とされている方ですので、7月末までに地域との関わりについてお聞きしたいこと等ありましたら、私の方から質問内容を委員に送付いたしますので、ご質問等もぜひお寄せいただきますようお願いいたします。

○委員長

委員は県の社会教育委員会の委員長をされており、やはり学校統廃合によって地域が弱くなってくるのではないかと、というその辺を専門にアドバイスいただけますので、ぜひ次回はその点も含めて、日程設定していただければと思います。

その他、会議全体を通して何か質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。

○委員F

話題に上がりましたコミュニティスクールについて、次回までに何かわかりやすい資料があれば用意していただけると助かります。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

実は、私もコミュニティスクールについて調べてみたのですが、おおよそ「地域の方々が学校に入ってきて運営に携わる」といった内容で、具体的にどのように反映されて、学校がどうなるのか、インターネット上では明確にはわかりませんでした。学校の先生をされていた方等はわかると思いますが、次回までにコミュニティスクールや小中一貫教育についての資料を前もって送付させていただきます。加えて、次回少し時間を取り指導推進室長から説明させていただきますので、よろしく申し上げます。

○委員長

コミュニティスクールは山形でも進んでおりまして、西村山地区でも朝日町、西川町において実施されているとのことで、ある意味先進地域であるというわけであります。

○委員G

諮問の内容からはちょっと違うと思いますが、今の現状を考えるとすると、去年、聞いた話によると、不登校の子供たちが増えているとのことで、非常に心配だ。改善策や現状に関する話は諮問の内容ではないのでこの会議での論点となるかはわかりませんが、皆さんにお話ししてからの検討会となってもよいのかなとも思いますので、次回に現在の各学校の取組み状況なども資料などで、時間は限られておりますけれども、お聞かせいただければ

と考えております。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

検討内容の今後のあり方や将来のあり方について、と資料にはありますけれども、これについては教育課程や学校の施設、寒河江市では不登校の子供が多数おりますが子供が学校に戻ってくるような仕組みづくり等、学校のあり方全般について検討していく予定です。したがって、資料に不登校という点が掲載されていないから話題にしないというわけではなく、寒河江市の学校全体が抱える様々な問題全てについてお話していただき、全ての子供が学べる環境づくりを目指して検討していただきたいと考えております。委員の方からも様々なご意見やご要望などもお聞かせ願いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局（学校教育課 白田課長補佐）

その他ということで、最後に教育長からお話いただきます。

○軽部教育長

本日は委員の方々より多数ご意見ご質問いただき、貴重なご意見いただいたなと思います。本日は第1回でスタートとなりますので全員の方より意見いただきましたけれども、委員それぞれの立場や地区、それに伴う事情に精通していらっしゃると感じました。限られた回数の中での会議となりますが、実のあるものとしていきたいと考えております。

委員からもお話ありましたけれども、子供たちにとって夢のある学校そして人口減少を解消できるような学校ができればいいなと思います。また、委員からもありましたように、寒河江市の不登校の出現率は全国の出現率平均を上回り、大きな課題となっております。以上のような、寒河江市の抱える教育の課題を解決できるような学校にしていきたいと考えております。情報が欲しい等ご希望ございましたら提供していきますので、積極的に意見の方出していただければと思います。本日はありがとうございました。

○事務局（学校教育課 白田課長補佐）

以上を持ちまして、第1回寒河江市立学校のあり方検討委員会を終了いたします。本日はお集まりいただきありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。